

あなたと町政を結ぶ



議会だより



▲中富中学校



▲身延中学校

町内4中学校の 学園祭



▲久那土中学校

下部中学校
▶



9月定例議会

- 町民と議員との懇談会 P2~4
- 92億8,618万円を決算認定 P5
- 委員会レポート P6~9
- 9月議会で決まったこと 質疑応答 P10
- 一般質問 P12~17
- 久那土保育所 P20

2013
GIKAI DAYORI
MINOBU
No.36

「議会だより」の題字を波木井出身の書家伊藤緑山氏に揮毫していただきました。

と の 懇 談 会

下部地区懇談会

＊と き 平成25年7月23日（火）

午後7時30分～午後9時20分

＊会 場 下部地区公民館

＊参加者 41名（町民23名、議員16名、事務局2名）



● 白熱した議論をくりひろげ ●

質 疑 応 答

提言・意見・要望

Q1 小中学校統合後期計画に対する各議員の意見を聞きたい。

A1 議会では「1中3小」を議決しており、各議員が意見を言う事は出来ない。

Q2 今日懇談会だから議員の意見が聞けると思って来たが、違うのか。
「1中3小」が議決されたからここで意見を言えないというのはおかしいのではないか。

A2 懇談会の前に議員全員協議会が開かれて、「1中3小」が議決されているので、これに反するような発言はしないでもらいたいと言われたが、私も皆さんと同じように疑問に感じている。

A2 議員全員協議会の席上、議会が意見書を出せば、教育委員会に利用されるので、そういうものは出すべきではない。と主張したが、9対4の多数決で決められてしまった。

A2 しめくりに、福留議長から「1中3小」は、あくまでも規模についてのもので、配置については、今後議会において議論していく」という発言があった。

Q3 町のビジョンが示されていない中で学校統合だけが進められている。町長には、定住促進などビジョンはあるのか。

A3 基本計画はあるが、ビジョンがあるとは感じられない。

○ 町の南端にある中学校へ統合するというのは合理的ではない。国道は、少しの雨で通行止めになる。大地震が来た時、子どもを迎えにもいけない。町の真ん中あたりに新たに中学校を建設するというような気構えを持つてほしい。

○ 甲府まで通勤しているが、県道9号線はカーブと傾斜が多く、冬季には凍結シトラブルが多発する。旧下部町時代からの懸案である「三沢―市之瀬バイパス」建設を希望する。

○ 下部地区公民館を全町で利用するような行事で活用してもらいたい。

・・・ 地域住民の声を聞く ・・・

町民と議員

身延地区懇談会

＊とき 平成25年7月24日（水）

午後7時30分～午後9時05分

＊会場 身延町総合文化会館2階会議室

＊参加者 37名（町民20名、議員15名、事務局2名）

事務局2名



● 膝を交えて「意見交換」 ●

質疑応答

提言・意見・要望

Q1

身延町総合文化会館駐車場のトイレは観光バスがトイレ休憩として寄ることがあるが、常時鍵がかかっているため利用できない。

トイレ裏で用を足すので、そこがひどく汚れており、風によりペーパーが舞うこともあり不衛生である。

気が付けば砂をかけて対応しているが、この現実をどのように捉えるか、施設の問題等、一考をお願いする。

A1

関係課に伝える。

Q2

超高齢化社会、今後において病院のベッド数が足りないのではと心配になる。

A2

身延の医療施設、病院数は近隣町村と比較しても充実している町と思う。従って、病院を増やすには至らないのではないかと考える。

【その他】

○ 身延地区各議員への「将来展望」・「将来へ向けての地域づくり」の質問。

要望

子どもの教育、学校がなくなるということは寂しい思いもあるが、1中3小を逆手にとって一気に教育レベルを上げてもらいたい。

○

リニア新幹線の駅も明らかになった。峡南地区から最短でリニア駅に行けるよう、富士川町鹿島から富士川左岸に道路を設け、甲府市大津町方面へのルートを要望する。

○

現実を見ると前向きな姿勢は出てこない。若者がいなければ活性化はできない。

大事なことは、町が若者に夢を与え、希望を持たせる施策、大きな目標を立てることである。

○

自然増減における出生が少なすぎる。若者支援、若者誘致として若者移住者に定住のメリツトをつくるのが大事である。

例えば、結婚し子どもが生まれたら田畑を無償貸与するとか、子どもが高校卒業するまでお米を無償であげる等の具体策を講ずれば、移住すると思う。

○

身延山の杉による花粉症で子どもが悩んでいる。山に入る職人も減っており、なかなか山の手入れ等が思うように行われていないと思うが、里山保全を進めることによる雇用の促進に併せて、何とか花粉対策をお願いしたい。

町民と議員との懇談会

中富地区懇談会

＊と き 平成25年7月30日（火）

午後7時30分～午後9時10分

＊会 場 中富地区公民館西嶋分館

＊参加者 35名（町民19名、議員14名、事務局2名）



● 住民からの意見活発に ●

質 疑 応 答

提言・意見・要望

Q1 後期統合計画では、中学校の統合時期が「3年後」では町民の理解を得るのは難しいのでは。

○ 中富中学校区住民への説明会をやってほしい。

A1 議会としては、規模として「1中3小」を提案してきたが、その配置については、今後、協議していく。

○ 1中3小の結論は拙速すぎたのではないかな。

Q2 2中3小は不可能なのか。中学校を2校区設けて、住民の選択ができないか。

○ 学校がなくなるのは寂しいが、大きなことで生徒数も多く、伸びのび成長することだと思う。

A2 議会でも、2中3小や2中4小の意見もあったが、その配置については、今後協議していく予定である。

○ 統合の前に、地域活性化の努力をしてほしい。そして、「この町に住んで良かった」といえるような町づくりをしてほしい。

Q3 2中にした場合、適正規模にならないとのことだが。

○ 小中学生の親として、早く統合してほしい。

A3 学年ごとのクラス替えや部活動など、ある程度選択肢ができる人数が必要であるということである。

○ 保育園児も少ないので、保育園の統合を進めて欲しい。

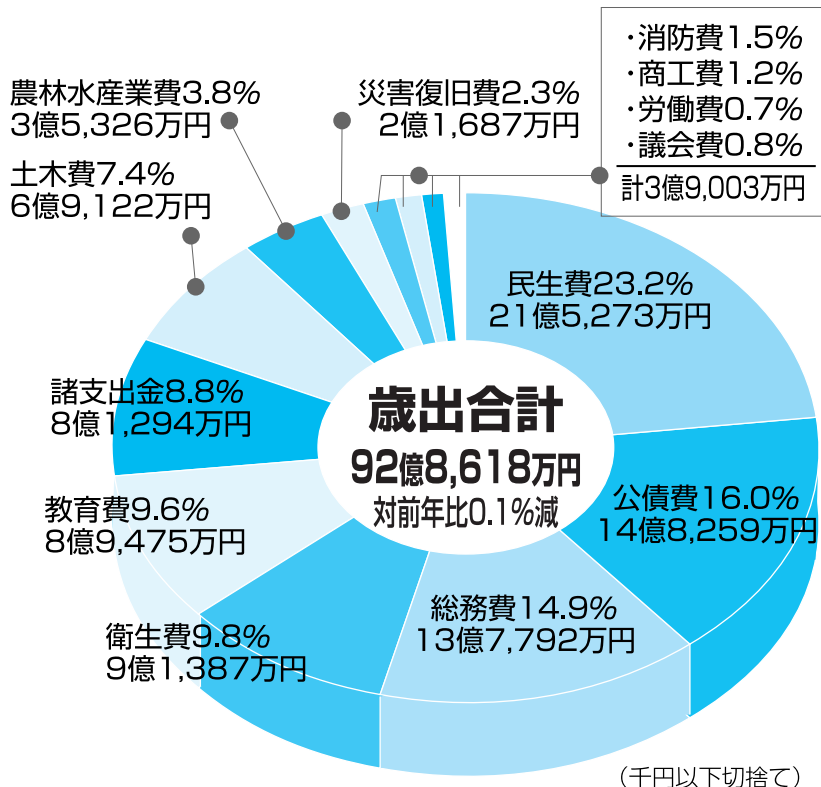
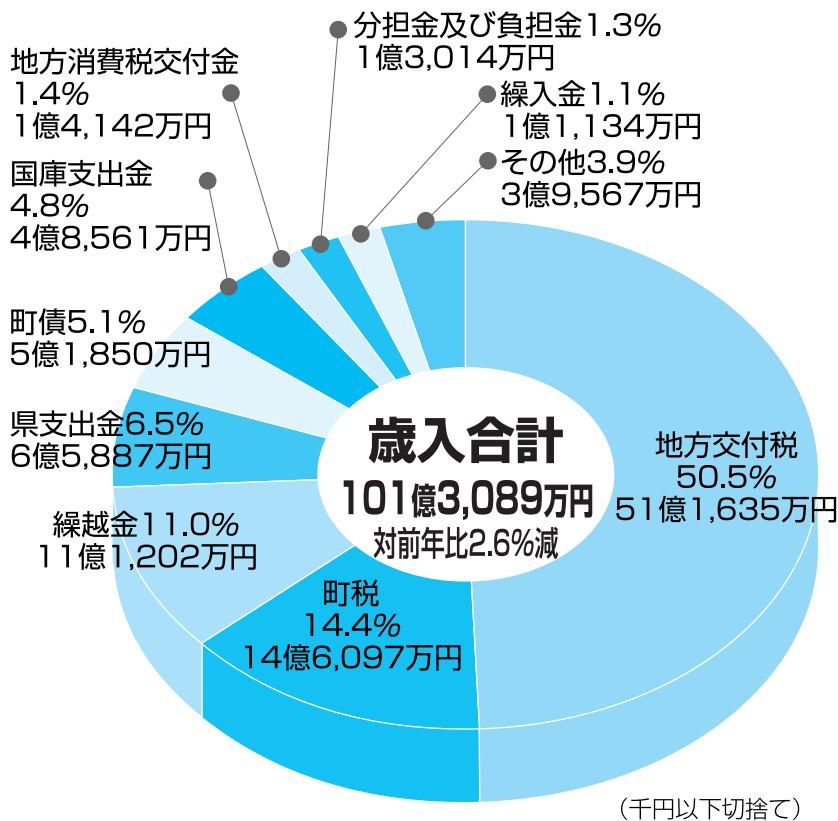
Q4 人口が減り子どもが少なくなったのは、学校がない、保育園がないことが影響しているのか。

○ 適正規模が何かなど、教育委員会への説明会をもっとやってほしい。

A4 学校がなくなったから人がいなくなったのではなく、子どもがいなくなったから学校がなくなったと思う。

歳出総額 92億8,618万円を認定!

平成24年度一般会計対前年度比0.1%減



財政基盤づくりの確立を

決算審査意見書

代表監査委員 渡 邊 吉 彦

歳入面においては、依存財源である地方交付税が50.5%、国庫支出金が4.8%、県支出金が6.5%と大部分を占めており、自主財源である町税は14.4%である。

経常収支比率は、73.3%で昨年度の75.3%より改善されているものの依然として高く、財政の硬直化が懸念される。

歳出面では、経常的経費である公債費が16.0%、人件費が14.7%、補助費等が11.1%を占めている。

また、各課の各事業が旧態依然のままの事業や他の事業と類似している事業が散見され、厳しい財政状況の中で、限られた財源を有効に活用するためにも、その事業が町の総合計画での位置づけ、事後の意義や内容を理解しながら既存事業の見直しが必要であり、検討する必要がある。

終わりに、自主財源の安定的な確保、経常的経費の削減を図り、事業の計画・実施にあたっては、その必要性を十分に考察し、取り組むことが必要と思われる。

一般会計

町民1人当たり
約65万円
(対前年比±0%)

特別会計含むと、
約108万円
(対前年比0.8%減少)

使われました。

25年4月1日現在の人口 14,282人

問 固定資産税の減少は

答 国保税に重点をおいたため

【現地調査】

・ 中部横断自動車道建設発生土処理場（江尻窪）
・ 林道三石山線開通式会場（大崩）

【質疑応答】

▼24年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算

税務課関係

問 固定資産税の収納額が減少した理由は。

答 国保税の未納者の多くは固定資産税も課税されている。通常、滞納分を徴収した金額は国保税と固定資産税とで折半となるが24年度は国保税に重点を置いたためである。

問 町県民税の調定件数は何件か。

答 普通徴収が2808件、特別徴収が1580件である。

財政課関係

問 地方譲与税の税制改正による減額は。

答 自動車重量譲与税の環境負担の少ない車について、重量税の減免措置が行

われ、約650万円の減額となった。

問 公共施設整備基金積立の理由は。

答 今後予想される公共施設のインフラ整備等のためである。

総務課関係

問 防災行政無線運用に伴う無線従事者資格の取得は、今後も計画的に行うのか。

答 無線従事者の有資格者を確保するため計画的に取得させたい。

政策室関係

問 地域づくりアドバイザー事業助成金とは。

答 若手職員が行っている婚活イベント事業の、アドバイザーに対する国からの補助金である。

問 田舎暮らし体験施設3棟の契約状況は。

答 清子は契約済みで、古関は契約に向け交渉中である。古長谷は今後空家バンクの登録者に利用を促す。

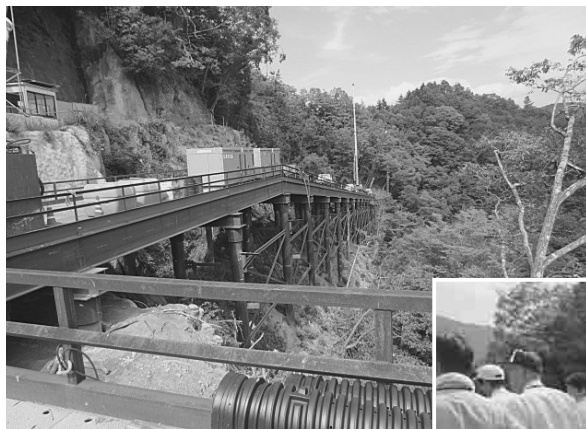
下部支所関係

問 補正予算により購入した備品の内容は。

答 久那土、古関の各出張所の各種証明等の発行業務で、直接プリントアウトできるように証明用印刷機器2台を購入した。

問 奥の湯温泉使用料の収納未済額は何件か。

答 過年度分で廃業した旅館の5・5カ月分と現年度分1カ月である。



中部横断道建設発生土処理場現地調査（江尻窪）



委員会

身延支所関係

問 「門野の湯」の利用者数は。

答 24年度は22442人の利用があり、うち無料の利用者が17004人、有料の利用者が5438人である。

問 身延支所の屋上防水工事の施工範囲は。

答 屋上の一部、86㎡の補修を行った。

土地対策課関係

問 図面用複写機がリースの理由は。

答 買取の場合、メンテナンス費用が高額なためリースで利用している。

問 雑入の内訳は。

答 地籍調査後の地図データ提供に伴う手数料である。

環境下水道課関係

問 犬の登録と抹消手続き、狂犬病予防注射の管理の周知は。

答 現在、町内の飼い犬はほぼ登録されていると考えている。犬の死亡届けを出していない場合もあり、登録と注射実施、死亡した場合の手続きを案内はがきや広報等で周知し啓発に努め

たい。

問 環境保全活動支援事業費補助金の、一般からの申請を町は把握しているのか。また講習会の参加状況は。

答 町内の一般の申請状況は把握していない。

24年度の講習会は5月12日に下部保健センターで実施し、50名の参加があった。

産業課関係

問 中山間地域直接支払制度事業の対象地域はどこか。

答 芦原山口、杉ノ木、竹ノ島、波高島、西嶋、久成、手打沢、寺沢、宮木、相又、針山下、門野、横根中、古閑、下田原の15地区が対象である。

問 中山間地域直接支払制度事業の期間は。

答 現在の15地域については22年度から26年度までの5年間の事業である。その後の事業継続については今後要望していく。

観光課関係

問 県補助金の景観形成モデル事業で、設置する看板の箇所は。

答 24年度に看板デザイン委託業務と、既設看板2基

の撤去を実施した。25年度に身延地内3カ所に設置を予定している。

建設課関係

問 当初予算で食糧費の項目があったが決算に記載がない。

答 予算執行されなかったもので決算書に記載されなかった。

問 道路橋梁維持費が当初予算より増えているのは。

答 地区の要望を受け、9月補正をした。

問 道路橋梁費の流用は。

答 賃金、役務費が不足し財務規則による流用である。



丸滝宮の前宅地分譲予定地

▼25年度一般会計補正予算

問 コンビニ徴収での利用件数と税目は。

答 8月30日現在、軽自動車税1465件、固定資産税3115件、町県民税917件、国民健康保険税379件である。

▼25年度身延町土地開発事業特別会計補正予算

問 当初の分譲予定では21区画だったが19区画で確定か。

答 19区画で進める。

問 売り出しは1月頃になるのか。

答 開発申請を県に提出したが、新たな雨水処理基準に基づき大きな側溝に改良しなければならなくなった。その分工期が延びるが出来るだけ早く売り出せるよう努力する。

問 上水道への移行は

答 困難を極める現状だ

〔現地調査〕

○なかとみ青少年自然の里

○身延地区公民館下山分館建設現場

▼24年度一般会計決算

水道課関係

問 簡易水道事業から上水道事業への移行についてどう捉えているか。

答 国から指導があり、簡易水道の統合計画を行い、28年度までに事業認可を受けることとなっている。本事業の継続により28年度から10年間を目的として企業会計化を進めたい。独立採算を基準に検討しているが、施設、配管の耐震化など費用的な問題も山積していて、困難を極める現状だ。

問 不能欠損処理の対応を検討しているか。

答 簡易水道使用料は私法上の債権に当たり、裁判所への手続きを行い、議会で承認され不能欠損処理を行うことになっている。現在、関係課と合同で条例の改正も含めて協議中である。

福祉保健課関係

問 がん検診の受診率を高めるため、地域住民や病院関係者の協力により検診を推進している自治体もあるが、身延町の取り組みは。

答 地域住民との協力は、保健推進委員による申込書の回収、受診の声かけ、回覧板や集落内放送による周知などに取り組んでいる。町内病院との連携は、今後検討していく課題である。

問 ドクターヘリは、指定されている離着陸場が近くにない場合、指定場所以外でも離着陸可能か。



なかとみ青少年自然の里現地調査

答 離着陸場は町内に30カ所程度指定しており、ドクターヘリがどの場所に向かうかは、消防署が指定する。ドクターヘリは、県立中央

病院から身延町の南部まで15分くらいで到着するので、その間に消防署が指定場所まで搬送し、時間的なロスをなくす。

問 保険料の滞納者に対し、どのように対応しているか。

答 定期的な訪問や電話での納付勧奨を行っている。

生涯学習課関係

問 和紙の里での仕入れと売上との差額は。

答 体験が約700万円、商品の売上が2300万円程度で、合わせて約300万円、材料の仕入れが約1300万円なので1000万円以上の黒字に見えるが、職員、パート等の人件費を入れると赤字になる。

委員会

問 金山博物館売店売上収入が昨年度に比べ、100万円程度減少しているが。

答 23年度は20000人超の入場者があったが、昨年度は19000人ほどで、入場者数の減少が主な理由である。

問 採算が取れず継続が困難な施設を廃止するという考えはないか。

答 各施設は旧町時代に町のシンボルという観点で計画・設置されたもの。経営的な発想で設置されたものではなかったと思われる。町民、特に子どもたちに向けて、町の歴史や文化を伝えることを、なお一層PRし利用促進を図っていきたい。

学校教育課関係

問 学校給食費の未納世帯数は。

答 中富学校給食センターが3人、身延学校給食センターが20人、下部学校給食施設が2人、久那土学校給食施設が3人、合計で18世帯28人となっている。

問 児童手当から滞納額を天引きすることは妥当か。

答 児童手当法の規定による本人からの申し出に基づき

給食費の徴収に充てている。

子育て支援課関係

問 指定寄付金の内容は。

答 昨年亡くなった、町立保育所の元保育士から100万円の寄付をいただいた。各町立保育所に防災備蓄倉庫、久那土保育所に折りたたみ式リヤカー、西嶋

保育所に乳母車を購入した。

問 町立保育所統廃合について町当局の考えは。

答 地域住民および保護者の意見を十分に聞きながら、統合に向けて話を進めている。



身延地区公民館下山分館建設現場

▼24年度後期高齢者医療特別会計決算

問 後期高齢者保険料は、制度が複雑となっていて、理解しにくいのが対策は。

答 新規該当者等には、制度のパンフレット等を送付し、周知を図っているが、今後はさらに分かりやすい資料を添付するなどしていきたい。

▼25年度一般会計補正予算

問 三沢川ふれあい農園の撤去処分後の扱いは。

答 テニスコートや遊具が置かれた場所はそのまま残るが、農園敷地は河川管理者である県へ返却する予定である。

問 和紙の里の特許査定成功謝金は何か。

答 県と町で共同申請した「トロロアオイの保存方法」とその粘性の改善方法についての特許である。

問 福祉教育学校等就学奨励金は25年度から支給額を一人3万円としたが、今まで何人が利用したのか。

答 24年度末までに100人である。

▼子ども・子育て会議条例の制定

問 この会議の性質は。

答 子ども子育てに関する施設および事業の定員設定や、子ども子育て支援事業計画に対して意見を述べる、子ども子育て支援に関する施策の実施状況を調査審議するといった役割を持っている。

9月議会で決まったこと 質疑応答

都市計画費2400万円は

景観形成事業に補助

補正予算関係

穂坂議員 景観条例に関する補助金2400万円の内容は。

竹ノ内建設課長 山梨県景観モデル事業で、身延山門内の上町地区20件に、1件あたり、限度額300万円

で県・町が各120万円、個人負担が60万円で景観形成事業を行う補助金である。今年度町は1200万円を補助する。

「三沢川ふれあい農園」の今後は

松浦議員 「三沢川ふれあい農園」は撤去処分ということだが、その後の利用計画は。

佐野生涯学習課長 長年継続してきた、下部花づくり実行委員会が、後継者不在

により解散になったため農園の撤去に至った。今後の計画はない。

決算審査関係

芦澤議員 ①町税の予算現額と調定額に大きな開きがあるが。

②地方交付税が予算より増額しているが。

③税の徴収率は。

笠井財政課長 ①予算を組む際は確実な収入額で計上するため、調定額と大きな開きが出ることもある。

②地方交付税は普通交付税の額で予算を組んでおり、特別交付税の交付により増額となる。

村野税務課長 ③徴収率は、町民税が95・2%、固定資産税が87・5%、軽自動車税が94・6%、タバコ

税は100%、入湯税は67%であり、町税合計で91%である。

渡辺議員 ①国保税の2556世帯中、正規保険証、短期保険証、資格証の対象世帯数は。

②後期高齢者保険料の収入未済額は23年度が約90万円、24年度が約823万円と増えているが、どれくらい徴収しているか。

③介護保険の収入未済額が840万円と昨年度より増えているがなぜか。

佐野町民課長 ①短期保険証が25世帯、資格証61世帯でその他が正規保険証である。②後期高齢者の収入未済額の解消に向けて、未納者に対して訪問等により、説明しながら徴収事務を進め、現在、約579万円徴収した。

福祉保健課長

③介護保険の徴収率は数%増えているが、保険料が高くなったために普通徴収の人の保険料の収入未済額が増えた。

条例改正関係

川口議員 ①消防団員860人を740人に削減する

改正だが、町外へ住民票を移した団員がいるか調査しているのか。

②初期消火に対応できる家庭婦人による婦人消防隊を消防委員会で検討したか。

笠井総務課長 ①現時点では調査していない。

②消防委員会では、検討していない。



身延町消防団

議案に対する賛否	佐野 富雄	柿島 良行	野島 俊博	望月 明	河井 淳	芦澤 健拓	松浦 隆	深沢 脩二	草間 天	川口 福三	渡辺 文子	穂坂 英勝	伊藤 文雄	望月 広喜	望月 秀哉	福與 三郎
決算認定																
平成24年度一般会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
〃 特別会計 〃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	
町の健全化判断比率と資金不足比率	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
条例制定																
子ども・子育て会議条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
下水道に計画区域外から排水する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
条例一部改正																
簡易水道の設置に関する条例(大城ほか)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
消防団員の定員を860人から740人に減員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
広域行政組合出向議員を3人から2人に減員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
補正予算																
一般会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
国民健康保険特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
介護保険特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
簡易水道事業特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
農業集落排水事業特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
下水道事業特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
土地開発事業特別会計(増額)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
請願																
30人以下学級実現など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発議																
地球温暖化対策に対する地方財源確保	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
発議																
道州制導入に断固反対する意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
追加議案																
飯富病院議会出向議員を6人から5人に減員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
諮問																
人権擁護委員の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
同意																
恩賜林保護財産区の管理委員の選任	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
賛成○ 反対× 棄権△で表示																

議長は採決に参加しない

決算認定に関する討論

一般会計決算諸支出金

反対討論

渡辺文子議員 24年度決算

「諸支出金」の「財政調整基金」「公共施設整備基金」に各4億円とある。担当者は「サービスは削らない。余った分を基金に積み立てる」と言っていた。町長は、将来にツケを残さないようにという方針だが、現在、困っている町民を守るために使うべきである。

賛成討論

野島俊博議員 歳入の半分

を占める交付金の留保分を基金として積み立てるものであり、3月議会の25年度当初予算で議決しており適正である。

国保特別会計決算

反対討論

渡辺文子議員 23年度から

2年連続の引き上げで、国保税を払えないという町民が増えている。他町と比べても本町が最も高い。負担を減らすため、一般会計から繰り入れをすべきである。

賛成討論

穂坂英勝議員 予算の執行

結果である決算の認定である。結果として1億3千万円の赤字であり、評価すべきである。

後期高齢者医療特別会計決算

反対討論

渡辺文子議員 この制度は

24年度に廃止予定であったが、現在も継続されている。2年ごとの保険料の見直しで、24年度は1621円上がっている。高齢者いじめの制度は廃止すべきである。

賛成討論

芦澤健拓議員 この制度

は、県下市町村全体が連合

して維持しているもので、

優れた制度である。国保も同様に県下全体で支えるようにできればよいと肯定的にとらえている。

介護保険特別会計決算

反対討論

渡辺文子議員 介護保険料

は、3年ごとの見直しで、24年度は45%という大幅に上がっており、保険料を払えない町民も増えている。保険料は高いが、在宅などのサービスは向上している。要介護4、5の人が特養にも入れず、困っている。一般会計から繰り入れるほか、国の負担を増やすよう要請すべきである。

賛成討論

望月明議員 予算を執

行した結果であり、いろいろな問題点はあるが、教育厚生常任委員会で慎重審議を行った結果、認定したものである。

ここが聞きたい！

一般質問



野島 俊博 議員

問 英語力教える側のスキルアップは

答 より実践的な語学指導を行っている

問 日本が経済における国際競争力に負けないために、日本人の教育レベル、とりわけ英語教育の充実が重要である。

英語力向上のためには、教える側の能力を高めることが不可欠である。教える側のスキルアップは、

教員 県教委の研修、県教委や教育事務所単位の公開研究、教師が取り組む県外研修、大学での研修、学校での校内研修を行っている。

また週3日、ALTの先生方をお願いし、より実践的な語学指導を行っている。

問 小学校の外国語活動の現状をどのように評価するのか。また、ICT教材を使った教育について、基本的知識と考へは、

教員 小学校の算数が中

学校では数学となるが、英語にはそのような連続性がなかったため、小学校段階でネイティブの音声に親しむことで、大きな教育効果が表れている。

問 部活動をさらに推進するためには、運動経験のない子どもがスムーズに入れる環境づくりも必要と考へるが、見解と取り組みは。

教員 部活動の選択は、生徒自身の自主的な選択でなければならぬ。

取り組みは、すべての生徒が部活に興味を持つよう、新入生一日体験部活動見学、部活動オリエンテーション、仮入部期間設定など、工夫している。

選択肢のない学校においては、顧問教師が基礎から丁寧に指導し、運動に対する興味が持続するように努力している。

武道必修化は

問 武道必修化が始まり、現在、中学校では具体的にどのような授業が行なわれているのか。また、武道の授業と部活動はどのように違うのか。

教員 久那土中では弓道、下部中は薙刀、相撲を選

択。中富・身延中は柔道を取り入れている。

武道は授業として全員に経験させるとともに、運動に親しみ、体力の向上、健康保持・促進を生徒に渡って保つことができるようにすることであり、部活は、自主性を持って任意に参加し、競技力の向上、責任感、連帯感、好ましい人間関係の形成のために行うものであると考へる。

●ALTとは、

外国語指導助手

●ICTとは、

情報通信技術を使った教育

【その他の質問】

次期行財政（改革）推進計画の基本的考へを聞く。



下部中学校武道授業風景（薙刀）



芦澤 健拓 議員

問 教育委員会の見解に異議あり

答 理解を得られるよう努力

問 久那土小中の1384

人の反対署名は不同意の表現だと思う。教育委員会は各校の同意が得られなければ計画の見直しもありうると言っていたが。

教育長 不同意の場合には、

極力理解を得られるよう努めるが、教育委員会として、最終的、総合的な判断と対応を行う。

問 この計画は、教育委員

会の一方的な押し付けである。下部・中富の説明会の熱気と身延地区説明会の平穏さという温度差をどう考えるか。

教育長 身延町の教育をど

うしようかということでは配置を考えている。私は不公平だとは思わない。

問 もしも身延中でなく下部中へ統合するという計画ならば、身延地区の人たちは反対すると思う。

これが不公平であるとする根拠だ。

教育長 現有施設の有効利用を優先して、学校の機能や規模で決めた。

問 通学バスの運行計画、乗降場所を確定することの

ことだが、学校間距離で計ったことが問題で、町民や保護者が納得できるものを最初から出すべき。

学校教育課長 ドアツード

アという考えはなかったもので、学校間距離で考えた。

問 統合は合併時からの計

画だったというが、平成18年の下山小建設時には考えなかったのか。

教育長 下山小建設時の当

事者ではなかったので責任ある答弁はできない。

問 遠くまで通うことで通学時間が延びる。貴重な時間を失うのを教育環境

の整備、教育内容の充実で補うといっているが、具体的な方策は。

教育長 学校間距離で30分

余分にかかるという説明をしたが、統合までの3年間で細かい点を詰めていきたい。

問 合併後10年で学校統合

を強引に推進するというのは、拙速に過ぎるのではないか。

教育長 合併協定書は、町

と町民との約束であり、この10年間で子どもたちの数は半減している。スピード感をもって対処していく。

その他の質問

問 下部温泉の火災発生時の対応に問題はなかったか。

総務課長 団長、副団長の確な指示と消防署との連携で有効な消火活動が

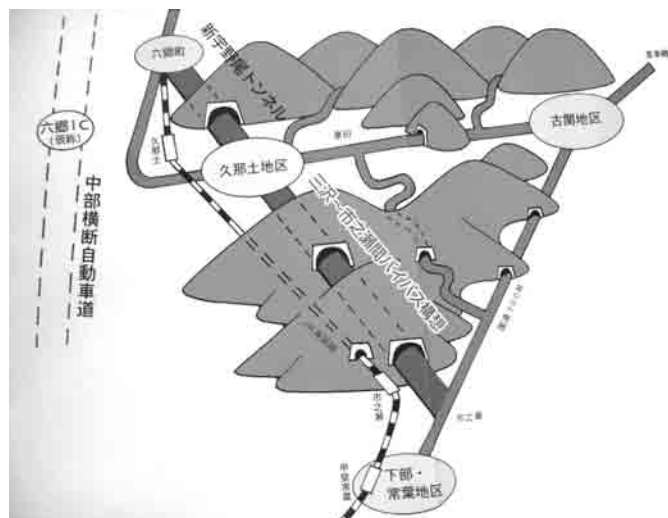
なされた。

問 三沢―市之瀬バイパス

建設実現の可能性は。

町長 「(仮称)中富イン

ター」の実現で、市之瀬―下田原バイパスを優先したいが、三沢―市之瀬バイパスをやめるというのではない。議会の全面的な協力を得て、県にも働きかけていきたい。



三沢―市之瀬バイパス計画図

望月 明 議員



田舎暮らし体験施設 古関館

問 定住促進を医療の充実で

答 医療の充実が必要

問 定住促進の施策の主なものとその成果は。

政策室長 空き家バンク事業は現在7世帯18人が利用している。また、二地

域居住推進事業は空き家をセカンドハウスの利用する人に斡旋するもので、現在3世帯9人が利用している。

宅地分譲は、現在丸滝地内で事業を推進中である。住宅対策としては、相又団地に54世帯133人が入居、柿島団地には30世帯72人が入居している。

問 定住促進には、医療の充実が必要。医師や看護師不足の解消等の対策と医療の充実についての考えは。

福祉保健課長 定住人口の確保、定住を促進するためには、医療を充実することも大きな要因となる。医師の確保については、県と連携し、地域医療を担う医師の養成・確保、定着、地域偏在の解消などに取り組む。看護師の確保についても、さまざまな施策を講じているが、必要な人数が確保できず苦慮している。

町内小中学生の食物アレルギー問題

問 小中学生の食物アレルギーの実態と対応は。

学校教育課長 給食施設ごとの患者数は、久那土と下部で3人、中富7人、身延5人、合計15人で全生徒の2・1%である。対応については、文科省の指導を受け、現場では養護教諭を中心に、生徒の個々の症状・体質に応じた指導をする。

町内小中学校での体罰について

問 体罰の現状と課題は。

学校教育課長 文科省の行った24年4月から25年2月を対象期間とした調査では、町では体罰は発生していない。

しかし、体罰根絶のために、校内研修や話し合いを重ねるとともに、教育委員会としても、現場の校長を通して指導の徹底を図っている。

提案 ①医学・看護系大学進学者への奨学金制度創設（卒業後町内病院勤務義務）

②医療環境や診療内容の充実と検診制度徹底による、福祉と長寿の町としての町づくり。以上の二点。



川口 福三 議員

問 後期計画見直し・延期は

答 最善の策と考えて進める

問 後期計画説明会の意見集約が全戸配布されたが理解できない。町民が理解できる内容であったと考えているのか。

教育委員長 本町の現状では後期統合計画は推進すべきとの考えを、速やかに周知した。

問 統合に絶対反対の意見が多くあったが反映されていない。何のための説明会だったのか。

学校教育課長 過小規模校を何とかしたいという思いで統合を進めている。

問 久那土地区と西嶋地区の一部の保護者に、六郷の学校へ通わせるとの声がある。行政で規制するわけにはいかないが、このような現象が起きた場合、どうするのか。

教育長 身延町に住所がある以上はこの計画に理解

と協力をいただきたい。身延町に残ってもらいたい思いではあるが、転出するかしないかは個人の自由であり、その場合は致し方ないと思う。

問 本町の小中学校教育は、過渡期だと感じている。説明会での意見が少しでも考慮され見直しされれば、町民も理解できるのではないか。身延中

学校への1中の統合はあり得ないとの声が多い。中学校の統合問題は保護者の意見を汲み取り、真剣に検討し再考すべきではないか。

教育長 久那土地区の方々から反対署名が出されたが、内容については真摯に受け止め、同意をいただけるよう理解を求めた。

問 反対署名が提出されたことを報じた新聞に、学校教育課長が「学校が無くなることに反対意見が出ることは当然と思う」と答えていたが、町民を軽視した発言ではないのか。

学校教育課長 学校が長くその地域に根ざしてきたために、学校がなくなれば哀愁を感じたり、歴史的な面に意義を見い出すこともあるだろうと考える。

た。その思いがあれば地域の方々の心情として、当然反対意見が出るだろうとの意味合いで話した。

問 町民あつての行政である。この統廃合問題の計画の見直し、延期等を考えるべきではないか。

教育長 後期統合計画が最善の策だと考えており今後もこのまま進行して行きたいと決意を述べるのみである。



身延中学校校舎

問 どのように行った中期計画

答 仮定の問題として説明



松浦 隆 議員

問 3段階方式で進められていた統廃合計画の中期計画はどうしたのか。

教育委員長 前期計画の早い時期に、答申を念頭に第2段階を中期、第3段階を後期計画と述べたことはあったかもしれない。しかし、前期計画の後半では、首尾一貫してその後の計画は未定だと説明した。

問 前期、中期、後期計画で進めると聞いている。住民や保護者に違った印象を与え統廃合を進めていると思われるが。

教育委員長 前期計画の説明の中で中期計画という言葉を使ったが、22年10月26日の静川地区保護者会で、中期計画は仮定の問題として説明している。もし中期計画があるような誤解を与えたので

あれば、この場でお詫びをしたい。

問 他の地域ではそのような話は聞いていない。

それが保護者に誤解を与える原因ではないか。統廃合計画に反対なのはなく、後期計画に納得がいかないと考えられる。今後も保護者や地域の声を聞き、中期計画も含め誠意をもって話し合いをすべきではないか。

教育委員長 今後十分配慮し話し合いを進めたい。

問 今後の保護者との話し合いで不同意の場合、計画変更はあるのか。

教育長 同意をいただける努力はする。しかし、教育委員会が最終判断を行うこともある。

問 古閑、久那土地区住民から、後期統廃合計画反対の署名が出されたが、そ

のように考えるのは。

教育委員長 多くの方の署名を重く受け止める。

問 保護者は学校の場合、学校数、距離を大きな問

題であると考えている。

この学校統廃合問題で人口の流出に拍車がかかり、過疎化がさらに進むのではと懸念される。町

長の提唱する「鎮守の森構想」も左右されかねない問題ではと考えるが。

町長 鎮守の森構想と学校統廃合問題を同列で考え解釈し、距離の問題を言っているが私はそうは考えていない。生活環境だけでなく、教育環境の充実も重要と考える。スクールバスで通うのであれば教育環境が向上する。そのためにも統合を進めたい。

要望 本町には基本計画はあってもビジョンがない。そのことを若い子育て世代は敏感に感じている。それが人口減少の一因になっていると考える。

今からでも身延町の20年後、30年後を見据えたビジョンをつくり、未来の身延町のために汗を流してもらいたい。



久那土中学校校舎



渡辺 文子 議員

問 反対の声の反映は

答 意見を要約した見解

問 22回にわたる住民説明

会を行い、見解を示したが、計画に反対する住民の声が反映されていない。

学校教育課長 様々な意見がある中で要約し、見解を示した。

問 保護者だけでなく地域

への説明会の予定はあるのか。また、後期計画は変更のないまま進められるのか。

学校教育課長 現在の段階

では保護者の同意が得られるか全く読めない状況である。地域への説明会は考えていない。見解に示したとおり、理解をいただきながら計画を進めていきたい。

問 過疎化や定住促進対策

など、町の活性化につけて学校は必要不可欠の存在。その学校を地域からなくす事は、自ら町の値

打ちを下げることになるのではないか。

教育長 学校がなくなるという事ではない。通学距離が伸びるが、教育内容

の充実を求めている。

問 28年に中学校を1校にするのはあまりに拙速だ

と思うが。
教育委員長 小学校よりも



住民健診風景

先に中学校を統合しておく必要があるという判断である。また、円滑な統合を行う上で、2年以上の準備期間をおくことがベストと考えた。

応している。

重度心身障がい者医療制度窓口無料化廃止の対策は

問 県がこの制度を廃止し、窓口で医療費を支払

わなければならぬが、お金がなければ病院にかかれないう不安の声が多いが町の対策は。

福祉保健課長 医療費の自

己負担分を無利子で貸付ける制度を県が準備している。今後も、県と連絡・調整を密にしてい

問 予防事業や検診に力を入れ医療費を抑える努力はどのようになっているか。

町民課長 メタボ対策として

検診、保健指導を実施しながら受診率の向上を図っている。同時に、保健師、保健推進委員の協力を得ながら保健事業を展開している。

問 国保税を引き下げると

め、一般会計からの繰り入れはできないのか。

町民課長 他の保健加入者もあるので借り入れて対

国民健康保険の改善は

身延町議会県外研修

(町・地域・病院が連携した健康づくりの取り組み)

- ・研修日
25年7月1日
- ・研修場所
長野県佐久穂町
- ・参加者
議員16人
事務局職員2人

佐久穂町は、「自分の健康は自分でつくる」を理念に、様々な保健活動を推進してきているが、個人の努力だけでは限界があるのも事実であり、仲間づくりや地域コミュニティを形成する活動については積極的に支援している。

また、地域を健康にする医療として、健康は個人だけで守るものではなく、「みんなの健康を、みんなで守ろう」が医療機関の合言葉であり、地域医療を守るすべての医療機関が「真に地域を健康にする医療ができるようになるのだ」と考えているところに地域医療セクターのまちづくり戦略をうかがい知るところで

あり、崩壊しつつある地域コミュニティの再構築の戦略でもあると感じた。
これらにより、健康と福祉のまちのイメージは「一般住民、障がい者、生活弱者、子どもがいきいきと暮らせるまち」との考えが見てとれる。

そして、最も重要なことは、住民一人ひとりがまちを愛し、地域を愛し、自ら「まちづくり」に参加することにあるとの考えを強く感じたところである。
先進地視察研修により、目指す方向、現在抱えている課題等、多方面に亘って意見交換ができ、大変有意義な視察でした。



健康福祉課の説明を受けて

広報研修報告（安八町・幸田町）

日程：25年8月22日・23日

参加議員：芦澤健拓・河井 淳・松浦 隆・望月秀哉・望月 明・野島俊博

岐阜県 安八町

1日目は岐阜県の安八町（あんぱちちょう）でした。

「議会だより」は、全国コンクールで奨励賞を2回受賞しているそうです。

はじめに、私たちの「議会議だより みのお」の内容を細かくチェックして批評する、いわゆる「広報クリニック」の結果を提出され、それを見ながら話が進められました。安八町の広報委員の「議会だより」に対する強い思いが感じられました。

愛知県 幸田町

2日目は愛知県の三河地方にある幸田町（こうたちょう）でした。

この町も「議会広報全国コンクール」で4年連続8回の受賞という素晴らしい実績を残しています。「こういう議会広報が受賞するんだ」という見本のような広報で、「こういう広報にしよう」と参加者全員が心をひとつにして帰ってきました。今まで取り組んでき

ました。
今回の研修を活かして、今後ますます研さんを深めて、「読みやすい広報、親しまれる広報」を目指して努力してまいります。



実りある研修

望月町長の行政報告

富士山が世界文化遺産に

6月26日に富士山が世界文化遺産登録される

富士山は、日本の宝から、世界の宝となりました。私たちは、環境保全に努め、美しい姿を後世に引き継ぐ責任があります。

25年度の普通交付税決定

前年度より1641万円多い46億35万円となりました。27年度からは、普通交付税の縮減が始まります。予算額の約半分を交付税が占めている本町では、今後とも財政運営の健全化に努めていかなければなりません。

新身延町行政改革実行プラン作成

25年度から27年度の3箇年「職員の行動改革と町民との連携と協働の推進」「組織力の強化と財政基盤の確立」を重点項目に掲げ、取り組んでいきます。

第28回国民文化祭やまなし2013

9月7日から11月10日まで、切り絵部門「国際切り絵コンクール・イン・身延ジャパン」が富士川・切り絵の森美術館で、美術展「工芸」は、10月12日から11月4日まで、なかとみ現代工芸美術館において、かるた部門「小倉百人一首かるた競技全国大会」は11月

2日と3日に身延町民体育館で開催されます。

定住促進対策「婚活支援事業」

6月に旧静川小学校で行われた「学校で婚活しちゃおう」と、9月の本栖湖で行われた「カヤック婚活」が終了し、11月に、本栖湖畔の竜ヶ岳で行う「トレックキング婚活」と西嶋のイルミネーションを活用しての「灯りで婚活」、12月には身延山の宿坊で宿泊を伴う婚活を予定しています。



国際切り絵コンクール議長賞受賞者（テツ山下氏）と
（撮影：深澤 徹さん）

モニター通信

議会広報モニターの皆さんからお寄せいただいた感想等の一部を掲載しました。

をひくものだと思う。
・町づくりの根本は「人づくり」にある。その場所は、家庭であり集落共同体であり、究極は学校であると思う。

◇一般質問

・小・中学校統合計画について、議会での意見集約は出来ていなかったのか。

・学校統合で、現状より窮屈な学校への統合がベターとは。責任ある現地視察を要請したい。
・議員の考えや取り組みを知ることができると。

◇研修報告

・議員個々が常に課題を持ち、問題解決に向けて意欲的に取り組むよう、トップとしての指導力に期待。
・議会だよりも研修を活かし、とても見やすくなった。中・高生でも手に取りたくなるような議会だよりを。

◇保育所めぐり

・多様な取り組みに驚いた。童話などの読み聞かせの機会を増やし、日本人の心情を育ててほしい。
・子どもは宝、とても良いこと。これから英語はとても大切。

◇町政全般についての意見・要望

・学校統合のことは、提案側の言い分には、机上での思惑が濃いように思う。
・学校統合により起こり得る不便さや諸問題の解決に知恵を出し合うべきであり、子どものことを第一に考えてほしい。
・国道52号線切石・飯富地内の渋滞緩和策を。また、役場入口と下田原の信号に右折信号の設置を。

◇6月議会のやりとり・討論・町長行政報告・委員会報告
・保育所統廃合について、将来的にも子ども増加が見込めないなら、財政面からも統廃合、人件費の削減に努めるべきと考える。
・町民を代弁する質問で、また、明確な回答で内容は非常に興味

町内保育所 保育園めぐり

みんななかよし
みんなきょうだい

久那土保育所



みて！みて！楽しいよ～。

久那土保育所の園児は、未満児5人、年少児8人、年中児3人、年長児6人の計22人です。
さまざまな年齢の子どもたちが一緒に生活する中で、大きい子には、思いやりの

心やリーダーとしての意識が育ち、小さい子たちは、大きい子にあこがれ、まねをしながら成長していきます。
子ども同士が年齢を超えてふれあい育っている場面に会おうと、小さい保育所

でしか味わえない温かい気持ちになります。

保育所の隣には久那土小学校と久那土中学校があり、一帯は、まるで「久那土学園」のようです。小中学生は毎朝「おはようございます」、帰りには保育所のフェンス越しに、「バイバイ」と手を振ってくれます。

小学校には「インターナショナルデー」や秋祭りに招待され、中学校では、職場体験で保育所に来て幼児教育を体験してくれます。また、授業の一環として、手作りのオモチャを持って遊びにきてくれます。

当保育園の保育内容としては「英語教室」「体育教室」「サッカー教室」「リトミック教室」や「交通教室」があります。どの教室でも子どもたちは、目を輝かせて楽しんでいきます。
地域の皆さんや祖父母とのふれあい体験として、さ

つまいも掘りや祖父母とのふれあい会、ボランティアの皆さんによる絵本の読み聞かせ会などを実施しています。

地域の皆さん、祖父母の皆さん、ボランティアの皆さんがたは、こどもたちと拍手や歓声で温かくふれあってくださいています。

皆さん、久那土保育所の子どもたちに会いに来て下さい。

(主任 佐野百合子)



温かい
家族のような
久那土保育所

